

平成 21 年度農業活性化プラン事業実施状況

1 農産物の高付加価値化

● 三条版高品質農産物生産基準策定に向けた検討会(第 1 回)

- (1) 目的 有害な硝酸の低減等高品質農産物生産に向けた基準値を説明・公開し、基準に則った作物生産が可能か、三条地域振興局・J A・農家と検討
- (2) 実施日 平成 21 年 11 月 27 日(金)
- (3) 会場 農業体験交流センター「サンファーム 研修室」
- (4) 対象者 意欲的農家・三条地域振興局・J A
- (5) 内容
 - ア 講話 「硝酸塩低減」
講師 新潟薬科大学名誉教授 及川紀久雄 様
 - イ 講話 「高品質農産物の土作り・微生物性」
講師 新潟市大郷カーネーション農家 中野孝治 様
- (6) 参加者数 20 人 (振興局 3 人、農家 14 人、農林課 3 人)

● 三条版高品質農産物生産基準策定に向けた検討会(第 2 回)

- (1) 実施日 平成 22 年 1 月 26 日(火)
- (2) 会場 農業体験交流センター「サンファーム 研修室」
- (3) 対象者 意欲的農家・三条地域振興局・J A
- (4) 内容
 - ア 講話 「エコでない、安全でない農産物生産に警鐘・高品質農産物生産基準」
講師 新潟薬科大学名誉教授 及川紀久雄 様
- (5) 参加者数 22 人 (振興局 3 人、JA2 人、農家 13 人、農林課 4 人)
- (6) 参加者の感想
 - ・良質堆肥と販路が確保されれば取り組みが可能であろう
 - ・学校給食でまず採用してもらいたい

● 良質堆肥開発・利用の検討

- (1) 目的 バイオマス利活用推進協議会で高品質農産物に欠かせない良質堆肥について先進地の堆肥生産の取組を視察し、開発・利用を検討する
- (2) 実施日 平成 21 年 11 月 26 日 (木)
- (3) 会場 十日町市・南魚沼市・魚沼市
- (4) 対象者 三条市バイオマス利活用推進協議会員
- (5) 内容
 - ア 施設 「川西有機センター」
 - イ 施設 「南魚沼広域有機センター」
 - ウ 施設 「魚沼市有機センター」
- (6) 参加者数 13 人

● GAP 事例視察説明会

- (1) 目的 農産物の安全性と信頼を確保するため GAP（農業生産工程管理）の導入推進のため、三条地域において本格的 GAP 導入はまだ見られないことから JGAP（日本版農業生産工程管理）認証を取得し、先進的に取り組む事例を視察研修し、理解促進と取り組み拡大に資する。
- (2) 実施日 平成 21 年 8 月 26 日（水）
- (3) 調査先 長岡市 農事組合法人エコファーム巻島
- (4) 事業主体 新潟県三条地域振興局
- (5) 参加者の感想 研修を含めて 100 万円程度かかる GAP 取得は費用対効果を見極めて取り組みすることが重要。

● 主要な高品質農産物の糖度・硝酸・ビタミン C 調査（大豆・えだまめ）

- (1) 目的 高品質農産物の指標は、元新潟薬科大学及川教授が示す糖度・硝酸・ビタミン C・抗酸化能があり、三条産主要作物がどの位置にあるか数項目調査し今後の高品質農産物生産に向けた参考とする。
- (2) 実施日 平成 21 年 9 月 10 日（木）
- (3) 調査先 糖度 三条地域振興局 硝酸・ビタミン C (株)県央研究所
- (4) 内容
 - ア 糖度 伊部茶豆 8.6% 山寄有機エンレイ 6.7% 川北慣行栽培エンレイ 6.5%
 - イ 硝酸 伊部茶豆 0mg 山寄有機エンレイ 0mg 慣行栽培エンレイ 0mg
 - ウ ビタミン C 伊部茶豆 33mg 山寄有機エンレイ 27mg 慣行栽培エンレイ 27mg

● 主要な高品質農産物の糖度・硝酸・ビタミン C 調査（ネギ・サツマイモ）

- (1) 実施日 平成 21 年 10 月 29 日（木）（収穫日：ネギ 10/29、サツマイモ 10/26）
- (2) 調査先 (株)県央研究所
- (3) 内容
 - ア 糖度 松岡ネギ 6.0% 上村ネギ 6.0%
 - イ 硝酸 松岡ネギ 16mg 上村ネギ 11.4mg
 - ウ ビタミン C 松岡ネギ 13mg 上村ネギ 8mg
 - エ 糖度 渡辺サツマイモ 11.3% 熊倉サツマイモ 13.1% 西潟サツマイモ 10.3%
 - オ 硝酸 渡辺サツマイモ 0.2mg 熊倉サツマイモ 0mg 西潟サツマイモ 0mg
 - カ ビタミン C 渡辺サツマイモ 46mg 熊倉サツマイモ 43mg 西潟サツマイモ 28mg

● ナノミストによる果実鮮度保持研究事業

- (1) 目的 地元企業が開発した高湿度を発生するナノミスト機械装置を導入し、果物（シャインマスカット等）の鮮度を保持することで他産地の出荷時期を遅らせ高付加価値化を図る。
- (2) 実施日 平成 21 年 10 月 1 日から研究を行う
- (3) 設置場所 渡辺果樹園（渡辺康弘氏）三条市井戸場 1 4 3

- (4) 構 成 員 にいがた南蒲農業協同組合、大島園芸振興協議会、(株)コロナ、三条市
- (5) 内 容 平成 21 年度はシャインマスカットを、平成 21 年 10 月から平成 22 年 2 月 8 日まで鮮度保持実験し、2 月 8 日に東京ビッグサイトで開催される「スーパーマーケット・トレードショー」に出展する。

2 販路開拓

● 荒川、横浜・三条交流活動事業

- (1) 目 的 荒川区・横浜市为学校給食に採用してもらうため、稲刈農業体験及び食育体験を実施し、三条産米の販路開拓を図る。
- (2) 実 施 日 9 月 19 日・20 日
- (3) 会 場 北五百川地区、尾崎地区
- (4) 参 加 者 荒川区立第 2 峡田小学校児童 28 名、保護者等 10 名、横浜市立戸部小学校児童 26 名、保護者等 7 名、農林課、食育推進室、教育委員会、営業戦略室
- (5) 内 容 コシヒカリ収穫体験を実施（2 か所で同日実施）
新潟産コシヒカリの「おいしくて・安心、安全」の PR について
学校給食への採用を打診 ほか

● 三条の魅力为全国へ届ける事業

- (1) 目 的 三条市の農産物の優れた良さを首都圏中心に全国へ発信し、地域ブランドの浸透と販路開拓や交流人口の増加を図る。
- (2) 実 施 日 ネスパスイベント 11 月 20 日から 23 日
都内交流会 11 月 23 日
箕面市農業祭 12 月 5 日
荒川区商品見本市 12 月 8 日
東京 NHK イベント 3 月 13 日・14 日
- (3) 参 加 者 実行委員会委員、農林課、営業戦略室
- (4) 内 容 三条産農産物の展示即売による PR
販路開拓と誘客宣伝及び交流人口の増加を図る
学校給食への採用を打診 ほか

● 中国向け新潟米輸出促進協議会 中国流通関係者招へい事業

- (1) 目 的 中国向け新潟米輸出促進協議会（新潟県、新潟市、上越市、三条市、新潟県農業中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部で構成）及び日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易センターが主催し、中国における新潟県産米や加工食品の販売拡大に向け、中国の流通関係者を新潟県に招へいし、米や加工食品の提案や安全・安心な生産体制等の PR 等を行った。
- (2) 実 施 日 平成 21 年 8 月 26 日（水）
- (3) 会 場 新潟グランドホテル

- (4) 参加者 1人
- (5) 内容 新潟米輸出に関する意見交換会

● 中国向け新潟米輸出促進協議会 食材提案会・試食宣伝会事業

- (1) 目的 中国向け新潟米輸出促進協議会（新潟県、新潟市、上越市、三条市、新潟県農業中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部で構成）が主催し、中国における新潟県産米の需要拡大を図るため、中国の現地小売店における試食宣伝会や日本食レストラン等への食材提案会を通して、新潟米のターゲットとなる消費者層やレストランオーナーやシェフに対して新潟米のおいしさを知ってもらい、年間を通じた需要の開拓を行うため、職員を派遣し情報収集を行わせた。
- (2) 派遣期間 平成22年1月6日(水)～10日(日)
- (3) 派遣先 中華人民共和国 上海市
- (4) 参加者 1人
- (5) 内容 (ア) 食材提案会 1月7日(木) ホテルオークラ上海
(イ) 試食宣伝会 1月8日(金)～9日(土) 久光百貨店
(ウ) 新潟米の販売促進の協力要請

● 新潟フェア in 香港（物産展）

- (1) 目的 三条市の農業の活性化のためには、三条産農産物の国内外の販路を開拓し、より有利な条件で販売することが重要な戦略であることから、市場も開放的であり、かつ中国のゲートウェイと考えられる香港のシティ・スーパーで開催された新潟フェア in 香港（物産展）に職員を派遣し、三条産農産物の販売促進活動及び情報収集を実施した。
- (2) 派遣期間 平成21年10月29日(木)～31日(土)
- (3) 派遣先 香港シティ・スーパー タイムズスクエア店ほか
- (4) 参加者 2人
- (5) 内容 (ア) 日本産農産物の消費者ニーズを始めとした市場動向
(イ) 流通市場における販売品目・価格などの販売状況
(ウ) 香港への販路開拓の可能性、課題など

● ロシアバイヤー招へい事業

- (1) 目的 新潟県及び日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易センターが主催した、モスクワ・サンクトペテルブルグの流通関係者を新潟県に招へいし、新潟県の食品・農産物の提案や安全・安心な生産・販売体制のPR等を行う情報交換会に職員を派遣した。
- (2) 実施日 平成21年7月27日(月)
- (3) 会場 ホテルオークラ新潟
- (4) 参加者 1人
- (5) 内容 歓迎レセプション

● 農水産物・食品輸出促進セミナー

- (1) 目的 新潟県及び日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易センターが主催した、農水産物・食品輸出促進セミナーに職員を派遣し、ロシア向け農水産物・食品輸出の可能性について受講させた。
- (2) 実施日 平成21年7月27日（月）
- (3) 会場 新潟県自治会館
- (4) 参加者 2人
- (5) 内容 (ア) ロシアの日本食市場について
(イ) モスクワでの日本食品販売の取組みと今後の展開について
(ウ) サンクトペテルブルグでの日本食品販売の取組みと今後の展開について

● 三条ホテル旅館組合と三条市農業担い手協議会連携による地元農産物PR

- (1) 目的 トキめき新潟国体が開催され、三条産農産物を紹介する絶好の機会であることから、三条市内に宿泊する選手・監督等関係者に三条産果物を提供しPRした。また生産者と地元の宿泊施設を結びつけることで、販路拡大・地産地消へと繋がる場を設定でき、さらに県外の消費者から三条産農産物を食してもらうことで生産者の生産意欲の向上を図る。
- (2) 実施日 平成21年9月27日～10月6日（国体期間）のうち各宿泊施設が設定する任意の1日
- (3) 会場 みなとや旅館、越前屋ホテル、ほしのや旅館、三条ロイヤルホテル、石田屋旅館、八木館、三観荘、旅館会六、割烹旅館公楽、お宿山天、風雅亭山水
- (4) 対象者 宿泊者約600名
- (5) 内容 (ア) ホテル旅館組合と農業担い手協議会打合せ会（2回：6月19日、8月25日）
(イ) いがた南蒲農業協同組合に提供元として協力依頼
(ウ) 提供する果物にメッセージカードを添付し三条産農産物をPR
(エ) 取組み内容を農業委員会広報に掲載

● 第44回2010スーパーマーケット・トレードショー

- (1) 目的 地元企業が開発した高湿度を発生するナノミスト機械装置を導入し、平成21年10月から平成22年2月8日まで鮮度保持実験し、2月8日に東京ビッグサイトで開催される「スーパーマーケット・トレードショー」に職員を派遣し、情報収集を行わせた。
- (2) 派遣日 平成22年2月7日（日）～8日（月）
- (3) 実施日 平成22年2月8日（月）
- (3) 会場 東京ビッグサイト
- (4) 参加者 3人（2月8日のみ1人）
- (5) 内容 (ア) 主催は（社）日本セルフ・サービス協会。食品スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信するプロ向けの専門展として、2010年で44回目開催となる。

- (イ) ナノミスト発生機械を導入して鮮度保持実験した果物（シャインマスカット（ぶどう）等）を出展する。
- (ウ) 果物の鮮度を長期間保持し、他産地との出荷時期を調整することで差別化を図り、販路開拓の可能性を探る。

3 人材育成

- 特定農地貸付け法によるしみん農園事業を支援

- (1) 目的 主に都市住民が野菜や花等を栽培して、自然にふれ合うとともに、農業に対する理解を深めること等を目的に熊倉睦が行う特定農地貸付けの実施・運営に関し必要な支援を行う
- (2) 実施日 平成 21 年 4 月 1 日(水)～平成 21 年 12 月 31 日(木)
- (3) 会場 三条市棚鱗「熊倉睦農園」
- (4) 対象者 農業に関心がある市民及び市外住民
- (5) 内容
 - ア 1 区画 100 m² 3,500 円／年
 - イ 春野菜・秋野菜の植え付け・中間管理収穫等指導
 - ウ そばの種まきや収穫祭等
- (6) 参加者数 22 区画、21 人

- みんなで農業体験講座(生涯学習課・中央公民館・農林課・都市計画課みどりの相談所共同事業)

- (1) 目的 農業未経験者に農業を体験する機会を提供し、参加者とともに農作物の収穫の喜びを味わってもらい中高年の生きがいを支援し、もって遊休農地の解消を図り社会貢献につなげる。
- (2) 実施日 平成 21 年 5 月 10 日(日)～平成 21 年 11 月 8 日(日)
- (3) 会場 三条市井栗「佐藤農園」
- (4) 対象者 市内にお住まいで指定する農地まで自らの手段で移動できる 40 歳以上の方
- (5) 内容
 - ア 定員 20 人 1 区画 50 m² 2,000 円／年 2 区画まで可
 - イ 11 回の学習講座（収穫祭を含む）
- (6) 参加者数 23 区画 22 人

- 特定法人の農業参入

- (1) 目的 農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想により、下田地区において事業趣旨に添った農用地利用増進を図るため。
- (2) 実施期間 平成 21 年から 3 年間（1 件）、平成 21 年から 10 年間（1 件）
- (3) 特定法人 1 法人
- (4) 対象地区 下田地区
- (5) 内容 特定法人貸付事業により、荒沢・棚鱗地区 2.5ha、遅場地区 0.4ha を実施

した。

4 地産地消

● 給食における三条産品利用促進打ち合わせ会

- (1) 目的 学校給食に使用する地元農産物の必要数量の調整及び利用拡大を図る。
- (2) 実施日 毎月1回
- (3) 会場 嵐南学校給食共同調理場
- (4) 参集者 三条地域振興局農業振興部（普及指導員）、J Aにいがた南蒲各地区担当者、学校給食共同調理場長、学校給食共同調理場学校栄養職員各地区担当者、青果物納入業者各地区担当者、農林課、食育推進室 15名
- (5) 内容 各月の使用計画について
農産物の生育状況について ほか

● 三条市内農産物直売所情報交換会

- (1) 実施日 平成21年5月22日(金)
- (2) 会場 農業体験交流センター「サンファーム 研修室」
- (3) 参集者 市内直売所代表者、J Aにいがた南蒲、営業戦略室、食育推進室、農林課 20名
- (4) 内容
ア 各直売所の概要について
イ 直売所マップの作成について ほか

● しただ郷交流拠点検討委員会

- (1) 目的 下田地域の経済の活性化、交流人口の増加及び雇用機会の増加を図るため、道の駅を核とした交流拠点づくりについて検討する。
- (2) 実施日 平成21年7月1日(水)、8月6日(木)、9月16日(水)
12月17日(土)、平成22年1月19日(火)
- (3) 会場 交流促進センター庭月庵「悟空」
- (4) 参集者 検討会委員 32名
(体験・イベントグループ15名、農と食グループ17名)
- (5) 内容
ア 体験・イベントグループ
①地域の特色を活かした体験メニューの掘り起こし
②様々な地域資源を連携したイベントの実施
③それらの効果的な情報発信 ほか
イ 農と食グループ
①農産物の直売施設や加工施設の検討
②地域特産加工品の推進
③地産地消レストランの研究

● しただうんめもんフェア

- (1) 目的 しただ郷交流拠点検討委員会が主催する「秋のしただ郷うきうきフェスタ」の中で農産物を直売し、管理・運営のノウハウを習得し、地元農産物の直売事業の検証を行う。
- (2) 実施日 平成21年10月10日(土)～11月1日(日)までの間の土曜・日曜日、祝日に実施
- (3) 会場 交流促進センター庭月庵「悟空」駐車場
- (4) 参加者 8団体
- (5) 総売上額 1,541,460円(9日間)

5 食育推進

● 三条の食べ物について語る会～農文化の伝承～開催

- (1) 目的 農村地域生活アドバイザーと消費者とが農業・農村の伝統的技術の伝承や交流活動を行うことで、農村地域の活性化を図り、食育や地産地消を推進することを目的とする。
- (2) 実施日 平成22年2月20日(土)
- (3) 会場 農業体験交流センター(サンファーム三条)
- (4) 参加者 15名
- (5) 内容 大根料理の今昔を知る(調理実習と試食)
メニュー:大根ごはん、雑煮、きんぴら、ゆず大根、コンソメ煮、ふろふき、干し株、たまり漬、干し柿のなます等

● 食育推進室主催各種事業

6 環境保全

● 環境保全型農業

- (1) 目的 安全安心の農産物生産を目的とする。
- (2) 実施日 平成21年度
- (3) 場所 市内全域
- (4) 内容 化学合成資材3割低減栽培3,475ha、
化学合成資材5割低減栽培420ha、
有機栽培34ha、

● 田んぼの生き物調査(農地・水・環境保全向上対策の取組みを含む)

- (1) 目的 次代を担う子供たちが身近な水田環境に生息する生き物の実態を学習し将来の環境保全に資することを目的とする。

(2) 実施場所 実施日 参加者

ア	金子新田	平成 21 年 8 月 1 日 (土)	47 名
イ	大島	平成 21 年 8 月 22 日 (土)	55 名
ウ	西中	平成 21 年 6 月 28 日 (日)	60 名
エ	小古瀬	平成 21 年 7 月 19 日 (土)	40 名

(3) 内 容 親子・地域役員が水田や農業用排水路等の生き物を調査し環境の実態を調査した。